

新春  
対談

健幸都市くさつ  
未来と魅力を語る

競泳元オリンピック選手 × 草津市長  
高橋繁浩 × 橋川 渉

KUSATSU BOOSTERSとして、草津市の魅力発信やスポーツ・教育振興にご協力いただいている高橋繁浩さん。芦浦観音寺で、健幸都市くさつについて、高橋さんと草津市長が語り合いました。

**市長** 高橋さんは、ここ芦浦観音寺がある常盤学区のご出身で、中学生まで草津で過ごされたのですね。その頃の思い出やエピソードはありますか？

**高橋さん** 子どもの頃は北大萱町にある宝光寺、私たちは薬師さんと呼んでいます。そこが遊び場でした。印象深いのは子ども会の行事ですね。お地藏さんを祀り、夜はお寺の本堂に子どもだけで泊まり、翌日は分けしてもらったお賽銭を手に、プラモデルを買いに行った思い出があります。左義長（小正月に行われる火祭り）の行事も楽しかったですね。

**高橋さん** 小さい頃から泳ぐのが好きでした。小学3年生の時、体育の授業で、「何メートル泳げるか」ということをやったのですが、授業が終わって給食の時間になってもずっと泳ぎ続け、800メートルほど泳いだ記憶があります。当時、水泳指導で定評のあった先生との出会いにも恵まれ、小学5年生の時に市内の大会で優勝したあたりが最初のデビューでしょうね。

う印象でしたが、最近ですと、芦浦観音寺の歴史的魅力が広く認められ、日本遺産に認定されたようで、とても自慢に思います。

**市長** このような貴重な文化財が草津市にあることは大変誇らしく、市民の皆様と共に協働して保存活用に取り組みなければならぬと思っています。

この芦浦観音寺は、長く湖上交通に携わり、水と暮らしが密着した歴史を歩んできました。高橋さんは選手として、解説者として、そして指導者として長く「水泳」と密着した人生を歩んでおられますが、そもそも水泳を始められたきっかけは何だったのですか？

**市長** 出身校の常盤小学校では、たびたび特別授業をしてくださっています。子どもたちにとって先輩がオリンピック選手として活躍し、現在も指導者や解説者として選手を身近で支えていることは、ふるさと草津への愛着や、将来への夢や希望につながっていると思います。

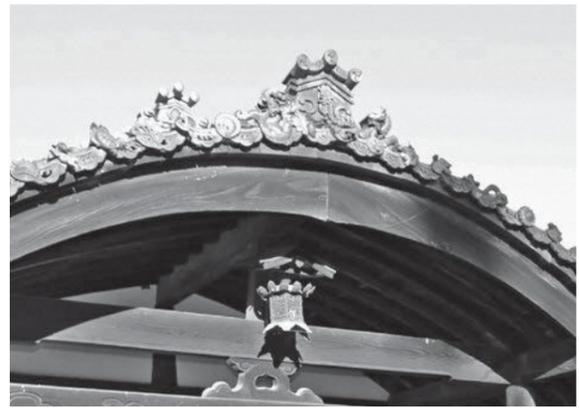
昨年11月の特別授業では、ご自身の失敗談を交えながら、お話をしてくださったそうですね。

失敗を恐れずチャレンジを

**高橋さん** その時は、「失敗に負けず、努力し続けることを大切にしよう」というテーマで話しました。私が質問をすると、みんな積極的に手を挙げてくれてびっくりしました。子どもたちは純粋ですよ。その気持ちをもつまでも持ち続けてほしいし、大切にしてあげたいと思います。

**市長** 市では学力と体力、双方の教育の充実に力を入れています。将来を見据え、最先端のICT技術と黒板・ノート・鉛筆の読み書きを上手く組み合わせ、主体的に学ぶ姿勢が身に付くような授業を積極的に行っています。

**高橋さん** 主体性はとても大切ですよ。子どもたちには「失敗したらどうしよう」なんて考えず、どんな失敗してほしいと思います。次は



常盤小学校の前身である襲明学校から移築した、芦浦観音寺本堂のアーチ状屋根をもつ表構え

芦浦観音寺は、水陸交通の要衝に立地しており、天下統一を進めた豊臣・徳川のもと、船奉行として琵琶湖の湖上交通を掌握し、境内を開き堀は水路で琵琶湖へとつながっていました。

水と暮らしが密着する往時の姿を残すこの寺院は、その歴史的魅力や特色が認められ、市内の7地域で行われる「草津のサンヤレ踊り」とともに、平成30年5月に日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」一祈りと暮らしの水遺産」に認定されました。



日本遺産  
JAPAN HERITAGE

失敗しないように、どうしたらいいか考えることが大切で、それが次につながります。スポーツ選手でも、強い人ほどたくさん失敗しています。私は初めて出場したオリンピックで、周りの有名な選手や聞き慣れない英語、オリンピックの舞台そのものに緊張し、かなり動揺したことを覚えていています。経験を重ねるごとに自分のレースができるようになってくることを、元選手として、指導者・解説者として、選手を見続けてきた中で感じていきます。

楽しみ方は自由 スポーツには出会いと喜びがある

**市長** 次の東京五輪で、オリンピックの舞台は10回目になるそうですね。

**高橋さん** 選手として84年、88年に出場し、その後はコーチや解説者として毎回関わっています。日本の水泳界は強いですし、ご縁があって解説を務めた、金メダリストの岩崎恭子選手や北島康介選手らとは、いまも接する機会が多いですよ。

**市長** 水泳は日本のメダル獲得が期待されている競技の一つですので、楽しみですね。オリンピックに続いて令和7年に滋賀県で行われる国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（以下、国スポ・障スポ）では、

YMITTアリーナや、草津川跡地公園で愛ひるばなども会場になる予定です。

そして、アリーナの近くには、同じく国スポ・障スポの会場となる予定の、室内25・50メートルプールや飛び込みプールを備えた、(仮称)市立プールも整備します。

日本も、滋賀県も、そして草津市も、ますますスポーツ熱で盛り上がっていきますので、さらにスポーツ振興に力を入れ、健幸都市につながっていきたくと考えています。



**高橋 繁浩**  
中京大学スポーツ科学部  
競技スポーツ科学科教授  
1961年生まれ、  
草津市北大萱町出身。  
常盤小学校、松原中学校を卒業後、  
広島県尾道高校へ進学。  
1984年ロサンゼルスオリンピック、  
1988年ソウルオリンピックに出場。  
1994年中京大学水泳部監督に就任し、  
現在は日本マスターズ水泳協会会長  
も務める。

**高橋さん** スポーツに関わる施設を作っていただけは大変うれいですね。その施設を活用したイベントの誘致もでき、それを間近で見た子どもたちが、スポーツを始めるきっかけにもつながります。

私は日本マスターズ水泳協会の会長を務めているのですが、マスターズ

書院にて。掛け軸の絵は9世住持の詮舜



水泳をされている最高齢の方が105歳なんですよ。80歳から水泳を始められたのですが、その方を筆頭に70代、80代の方々はおのれすごく元気です。子どもたちがおじいちゃん、おばあちゃんを見て「かっこいい」「僕もおじいちゃんみたいに泳ぎたい」となるのが私たちの理想です。

**市長** 私も水泳を始めようかな(笑)。スポーツには実際にプレーする選手だけではなく、応援する人や、プロの選手を夢見る子どもたちなど、多くの人を元気づける力がありますね。

**高橋さん** スポーツを通していろいろな人と知り合えて、横のつながりができたことは大きな財産です。何かスポーツをやっているというだけで「気持ちいいよね」と共通の話題として盛り上がりやすい。

**市長** 昨年はコロナの影響で多くのイベントや大会が中止となり、なかなか思うようにスポーツを楽しむことができませんでした。Withコロナの時代、どのようにスポーツを盛り上げていけば良いと思われませんか？

**高橋さん** マスターズでは、感染対策を徹底し、各地の会場を結び、リモートで同時スタート、同時ランキングを付けるという新しいやり方を模索しています。「そこでイベントをやらせないに参加できない」ではなく、いつでも使える、いつでも参加でき

ることが求められています。そういう意味では、草津市に施設ができ、いつでも参加できる場所を提供していただけるのは素晴らしいことです。スポーツは見て楽しむ、教えて楽しむ方法もあります。スポーツをやるのが苦手という人も、最近では「優しい参加」という工夫した方法もあります。例えば水泳の場合、時間を決めて泳ぐ方法、「30秒で25メートル泳ぎます」と申告したら、それに一番近いタイムの人が勝ちというルールだと、遅い人でも優勝するチャンスがある。単にタイムを競うのではなく、ゲームの要素を入れて、苦手な人でも楽しめるような方法が考えられています。

**健幸の秘訣はコツコツ続けること**

**市長** 日ごろから心と体の健幸を保つために気を付けていることはありますか？

**高橋さん** コツコツ続けることですね。1年間は52週あるので、週1回のトレーニングで1年間に52回、これを10年続けると520回になる。私は30年やっているので1560回です。やっけない人との差は必ず出てきます。苦手な英語もコツコツやろうと思っ取り組んでいます。

なってしまう。夏休みは毎日練習に行かないといけなかったし、遊びたい時期だったので、やめようと思っずる休みをしました。顧問の先生に怒られ、そこで戻ったから今の私がある(笑)。怒られなかったら、そのままやめていたと思います。

**健やかに、幸せに、市民の皆さんとともに挑戦**

**市長** いろいろな節目での「出合い」が水泳人生を支えてきたのですね。

市では、平成22年度から現行の第5次草津市総合計画で、「出合いが織りなすふるさと」元氣と、うるおいのあるまち 草津」を将来ビジョンに掲げ、さまざまな出合いによって、人やまちに活力が生まれることをめざし、まちづくりを進めてきました。

来年度からは、「ひと・まち・と きをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと 健幸創造都市 草津」という将来ビジョンのもと、第6次草津市総合計画がスタートします。

市では、地域、企業の方々や健康都市宣言を行い、誰もが生きがいを持ち、健やかに暮らせるまちづくりを市の総合政策として進めています。今回の「健幸創造都市」の「創造」には、市民の皆様と共に

新たな動きを創り上げていく、これからのまちづくり、ともに挑戦していくという意味を込めています。

**高橋さん** 草津市が新しいことに挑戦していくことで、未来を担う子どもたちが、失敗を恐れずチャレンジしていくことにもつながると思います。私は子どもたちに「ご飯を食べる」「運動をする」「よく寝る」「あいさつをする」ことで、心も体も健やかであることが大切だと伝えていきます。これからも「健幸都市くさつ」の取り組みをぜひ進めてほしいです。

**市長** 健幸都市の実現には、市民の皆さん一人一人が、適度な運動やバランスの取れた食事、十分な睡眠を心掛けることが大切です。Withコロナの時代の中でも、人とのつながりを持ち、社会参加することも大事ですね。

**市民の皆さんへ**

**高橋さん** 近年「住みよいまち」「住みたいまち」として人気があると有名ですが、生まれ育った故郷を離れ、いま改めて草津は本当に良いところ、帰りたいという気持ちがある人多く、琵琶湖越しに比叡山が見える風景はとてきれいです。その一方で、駅前や草津川跡地などでは、斬



重要文化財 観音寺書院

食事もそう。嫌いなものがあっても一つずつ克服すれば食べられるようになる。頑張つて続けていくことが大事だと思います。市長こそ、コロナでさらに大変だと思いますが、どうされているのですか？

**市長** 私は、早歩きをしたり、食事で野菜を多く摂るようにしたり。家庭菜園もしてリフレッシュしています。好きな読書は残念ながら今は「積ん読」で(笑)、これがストレスかもしれないが、日ごろから多くの市民の皆さんに元気をもらっている

新たな開発も進められています。住みやすく居心地の良いところが、コミュニティを作り出し、ちよつと散歩してみようかなと思う環境が、健幸をつくっていくのだと思います。住んでいると当たり前になっていく地元の良いところを、もっと積極的に知っていただきたいです。

**市長** 今年は令和14年までを計画期間とする総合計画がスタートします。「こころ」育み、「笑顔」輝き、「暮らし」支える、「魅力」あふれるまち、そして「未来」への責任、この5つの基本目標を掲げ、メリハリのある市政運営に努めてまいります。皆様のご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



コロナ対策を講じて対談しています。載せきれなかった内容はこちらから



草津市長 橋川 渉 1949年生まれ。京都大学卒業後、1973年草津市入庁。企画部長、政策推進部長などを歴任し、2008年3月～草津市長（第16～19代）。座右の銘「至誠」「至誠にして動かざる者は、未だこれあらざるなり」(孟子)